



花だより 鳥だより



ポロト案内舎 2017年 6月 66号

あっという間に過ぎ去る6月。霧の日が多く、スカッとした青空は望めません。そして寒い。5月の方がずっと暖かだった気がします。しかし、野鳥は歌い、花は次々に咲き、命あふれる季節。時がとまればいいのに、と思いながら過ごす月です。



今年はすごい！ 霧多布のワタスゲ



風に揺れる白い穂。湿原を白く染め上げ、右に左に、ランダムに揺れています。こんなにたくさん穂があるのに、ひとつとして同じ動きをしていません。眺めていると癒されます。

今年のワタスゲはポロト案内舎が始まって14年間で最も見事です。去年は最も貧相でした。悪い時があるからよい時もあるのだと、ワタスゲに教えられました。



ポロト沼のツル



ヒナたちは見違えるほど大きくなりました。左の写真が5月の末、右が1か月後の写真です。茶一色だった体に白い部分が出てきました。体がひとまわりもふたまわりも大きくなり、足や首がたくましくなっています。大きくなるのはよく食べるから。ヒナの旺盛な食欲を満たすため、親は忙しく食べ物探しです。見ていると、ドジョウみたいに細長い魚や小魚を次々につかまえます。すると、そばにいたヒナがくちばしを伸ばし、ねだります。親は魚をくわえたまま何度も振り回し、弱らせてからヒナに与えます。魚が大きいと、なかなか呑み込めません。ヒナも親のまねをして、振り回したり、つついたりしながら食べています。





クシロハナシノブ



これも14年間で初めて。白いクシロハナシノブです。いつものヤチボウズ木道に一株だけ咲いていました。

色が違うと新鮮に見えます。普通の株は北国の空を思わせる青い花卉。これはその空に浮かぶ雲のようです。雄しべの黄色が鮮やかに強調され、これもまたいい感じです。来年もここに白い花を咲かせてくれるでしょうか？



残っています その1



霧多布湿原、榊町にある小さな沼にオオハクチョウが1羽浮かんでいました。よく見ると昨年生まれの若いハクチョウです。ケガをしたのか？病気をしたのか？故郷の北国へ飛んで行けずに残っています。緑の湿原にハクチョウがいる風景に違和感を覚えます。

10月までゆっくり静養していれば、仲間のハクチョウが渡って来ます。それまで1羽で寂しそ

うですが、生き延びてほしいものです。翌日まで同じ沼にいましたが、その後は姿を見ていません。



残っています その2

6月は新緑の季節。森の木々が一斉に若葉を伸ばし、日に日に広がっていきます。それに比例して森の中は薄暗くなっていきます。雪どけから新緑までの約2か月間、森が明るいうちに花を咲



かせる植物たち。新緑の季節は、春の妖精と呼ばれる花が消えるころです。しかし、探せばあるものです。霧多布岬にはオオバナノエンレイソウがまだ咲いていました。

岬には森がありません。草地在りです。そして海霧が冷気を運んできます。明るい草地で冷たい風に守られるように大輪の花を広げていました。延齡草。寿命が延びる花ですね。



オオジュリン



霧多布岬や霧多布湿原、案内舎の周りでもよく見られるオオジュリン。丈の高い草地在り大好きなホオジロの仲間です。ちょっとスズメに似ていて、スズメより大きな鳥。オスは黒い顔が特徴的です。そして、のんびりした声でよくさえずります。ヨシの上やエゾノシシウドの花の上でさえず

ることが多く、声だけでなく姿もよく見かけます。

メスに求愛するときは、顔の黒い部分を膨らませます。顔が大きく見える方がメスには魅力的なのでしょう？ライオンのオスやオラウータンのオスのように、顔が大きい方がメスにもてるのでしょうか。大きい顔を演出するために黒いのかな？よく見ると、顎から胸元まで黒く広がっていますよ。小顔よりも大顔が生物界では人気です。男性が髭を伸ばすのは、この法則の現れなのでしょうか？